令 和 ５ 年 ８ 月 ７ 日
丹後農業改良普及センター

台風６号接近に伴う農作物等の技術対策について

気象庁の予報によりますと、台風６号は８月７日現在鹿児島県奄美市の東南東 170 キロの海上を東に進んでおり８月９日頃に九州地方にかなり接近する見込みです。

この影響で近畿地方には８月９日から１０日にかけて暖かく湿った空気が流れ込むため大雨になる恐れがあり、雨雲が予想以上に発達した場合や停滞した場合は警報級の大雨になる可能性があります。土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水に十分注意してください。

台風接近までに、以下の技術対策事項を参考として、事前の対策に備えていただくようお願いいたします。

１　水 稲

(1)通過前

①強風による倒伏や葉の乾燥などを防ぐため深水管理に努めるとともに、稲が水没しないよう予め排水口を調節しておく。

(2)通過後

①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

②中干しが不十分なほ場では、収穫に備え落水し地耐力を増す必要があるが、早期落水は屑米の多発を招き、低収・劣質の原因になるため、水管理に留意する。

③成熟期に達し倒伏した稲はできるだけ早く刈り取り、未熟粒の発生など品質低下の防止に努める。特に京の輝き等穂発芽しやすい品種には注意する。

④穂いもちの発生状況に注意し、適切に防除を行う。

⑤収穫までに日数がある場合は、無理に起こすとさらに被害を大きくする恐れがあるため、穂を茎葉の上に乗せる。株際を調べ折損していないようであれば、５～６株ずつ緩く束ねて立て寄せてもよい。被害籾は仕分けて刈り取り・調製を行うことが望ましい。

２　豆 類（「紫ずきん」を含む）

(1)通過前

①必ず排水路、排水口等の点検を行い滞水が生じないようにする。

②黒大豆については、支柱・ビニールひも等による倒伏防止対策を行う。

(2)通過後

①黒大豆・小豆では、倒伏して茎や莢が地面についていると腐敗するので、その部分を直ちに起こす。その後、腐敗防止のため、殺菌剤の散布を直ちに行う。

②浸冠水した場合は速やかにほ場の排水を図り、病害虫防除を行う。特に、小豆については茎疫病の防除のため殺菌剤の散布を行う。

３　野 菜・花き

(1)通過前

①ハウス栽培については、ハウス内に風が吹き込まないように、被覆資材破損部は補強し、しっかりと閉めきる。また、資材固定金具やハウスバンドが緩んでいないか点検して締め直し、サイドが風であおられないよう固定する。

②露地栽培については、支柱やフラワーネットを点検して補強し、しっかり固定する。直播きでまだ生育初期のものは、べたがけ資材等で茎葉を押さえる。その際、べたがけ資材は風にあおられないようにしっかり固定する。また、ほ場が冠水しないよう、排水路を整備する。

(2)通過後

①滞水している場合は、速やかにほ場の排水に努める。

②液肥（500～1,000 倍程度）を施用し、草勢の早期回復を図る。

③風雨によって発生する傷から菌類が侵入し、病害が発生することが予想されるので、こまめに観察し、発生が確認された場合は発生初期に防除を行う。

④収穫可能なものは速やかに収穫する。また、播種や移植の直後で発芽不良・立ち枯れが確認された場合は、可能ならば播き直し、植え直しをする。

４　果 樹

(1)通過前

①防風ネットは柱の倒壊を防ぐため、控え線や杭を打って補強する。また、ネットの破れ目を補修しておく。果樹棚は周囲線の留め金、アンカーからの控え線、吊り線を点検し、切れないように補強しておく。また、棚の揺れ止め補強を行っておく。ハウス（雨よけ含む）では、被覆が破れないように、押さえバンドで補強するとともに、ハウスごと飛ばないように、柱から控え線を張って補強しておく。

②棚利用の果樹、特にこれから収穫期となるナシでは、枝の誘引をしっかりして、枝折れや果実の落下を防ぐ（傷果防止）。

③徒長枝等はできるだけ整理して風通しを良くしておく。

④収穫できる樹種（モモ、ブドウ等）では、できるだけ収穫する。

⑤排水対策（明きょ等）をしっかり行っておく。

⑥収穫終了したハウスやトンネルでは強風に煽られないようにビニールを外しておく。

⑦病害発生が予想されるため、可能ならば銅剤等で台風襲来前の予防散布を行う。

(2)通過後

①落下した果実は、園外に持ち出して処理する。

②骨格枝が完全に折れた場合は、鋸等で折れ口をなめらかに切り戻して、癒合剤を塗布する。不完全な場合は固定し、癒合面が乾燥しないようにビニール等で覆う。
③冠水した場合は、速やかな排水に努める。
④ブドウではべと病、ナシでは黒星病や黒斑病、モモではせん孔細菌病、カキでは炭疽病等の発生が予想されるので、殺菌剤を散布する。

５　茶

(1)通過前

①傾斜地茶園では､浸食防止のため土壌表面のマルチや周辺排水溝の整備を行う。
②被覆棚では、ほどけた被覆資材が強風を受けて倒壊する恐れがあるため、被覆資材が支柱等へ確実に結束できているか確認する。
③製茶工場では、雨水が浸入しないように十分に点検する。
④病害発生が予想されるため、可能ならば銅剤等で襲来前の予防散布を行う。

(2)通過後

①茶園が浸水した場合は、速やかに排水を図るとともに漂着物を除去する。
②土砂が流入した場合は速やかに取り除く、また、表土が流亡している場合は早急に土入れを行う。
③強風等で茎葉が傷ついた場合は、輪斑病、炭そ病予防の殺菌剤を散布する。